日本聖公会東京教区　大森聖アグネス教会

# 巡ごめ便り

２２３号
夏版
２０１７年（平成２９年）
９月３日発行
編集・印刷：
馬込便り編集グループ
＜題字　故黒田浩子姉＞

## 『すべては神の賜物 ハレル ハレルヤ』(聖歌集 483)

司祭　フランシス　下条（しもじょう）　裕章（ひろあき）

とり散らかり、混沌を思わせるわたしのデスクまわりを眺めながら、どうしてこうなるのだろう。さて何からはじめれば片付くのだろうと、思うことがしばしばあります。まず、どこからでも、目の前にある何かに手をつけることが解決への道のはじまりとなる。千里の道も何とやら、始まればおおむねその道を進むことはできるものです。しかし、わかってはいるのに、整理をはじめられないわたし、反省してもまた混沌に逆戻りする、わたしのデスクがここにあります。

社会でも教会においても、さまざまな困難がわたしたちの身のまわりで話題となり、不安の増大を感じさせられるようになってすでに久しい気がします。混沌の時代を生きるためー生き残るためではなく、いきいきと生かされてゆくため、どこから手をつければいいのでしょうか。

そこで、わたしたちの主イエスの生涯を改めて思いめぐらしてみましょう。主の歩まれた道はとても平和・平穏な道とは言い難いものでした。困難と不安は目前また生活の傍らにありつつ、イエスはその弟子たちや出会う人たちに歩み寄り、語りかけられました。自分たちの生活の安定を求めて防壁や富を備えよとは決して言わず、苦しみや圧迫のなかにある人びととともに生きるためにあえて、困難で不安な現実に向きあわれました。

ではそのまず大切にされたこととはいったい何だったのでしょうか。試しに手もとの事典を開いて、「まず」という語を引いてみると、マタイによる福音書には１１回出てくるようです。「まず行って兄弟と仲直りを…（５：２４）」、「まず自分の目から丸太を…（７：５）」、「まず強い人を縛り上げ…（１２：２９）」などなど。しかしながらその筆頭は、「何よりもまず」と言葉が強められている個所、「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのもの（生きるに必要なもの）はみな加えて与えられる。（６：３３）」だと思います。

時が良くても悪くても、どんな時代状況の中にあっても、わたしたちが、また教会の共同体が目指すものは、まず神の国と神の義だというのです。

神の国は、神の恵みと支配によって、「シャローム（主の平和）」が実現した新秩序・新社会を表します。イエス・キリストの到来によってその種は芽吹き、わたしたちの世界に広がります。また神の義は、神の思いと合致した行動を指しています。 シャロームを実現させようとする働きを意味しているといってもよいでしょう。

＜3ページへ＞

日本聖公会　大森聖アグネス教会　東京教区
牧師 司祭 フランシス 下条 裕章（しもじょう ひろあき）
〒143-0025　東京都大田区南馬込1-58-8
Tel&Fax：03-3771-3459
e-mail：st.agnes.omori@gmail.com
ホームページ：www.nskk.org/tokyo/church/oomori/

＜巻頭言より＞

ちなみに、シャロームとは、人もまた社会についても、傷つき欠けたところのない状態を表します。そこでは抑圧や差別、痛みや苦しみを負った人が放置されることはありません。

　わたしたちの教会、また一人ひとりに大きな力はなくとも、「シャローム」を目指して、隣人・社会に向け、具体的な働きかけを、成否に関わらず試み続けること。その出会いの現場から、宣教の喜び、生きる力のすばらしさ、支えあう社会の大切さへの気づきが必ず与えられます。そして、わたしたちの神への祈りと礼拝は、神の国と神の義をまず求めるキリストの歩みと結ばれ、さらに豊かなものとされてゆきます。